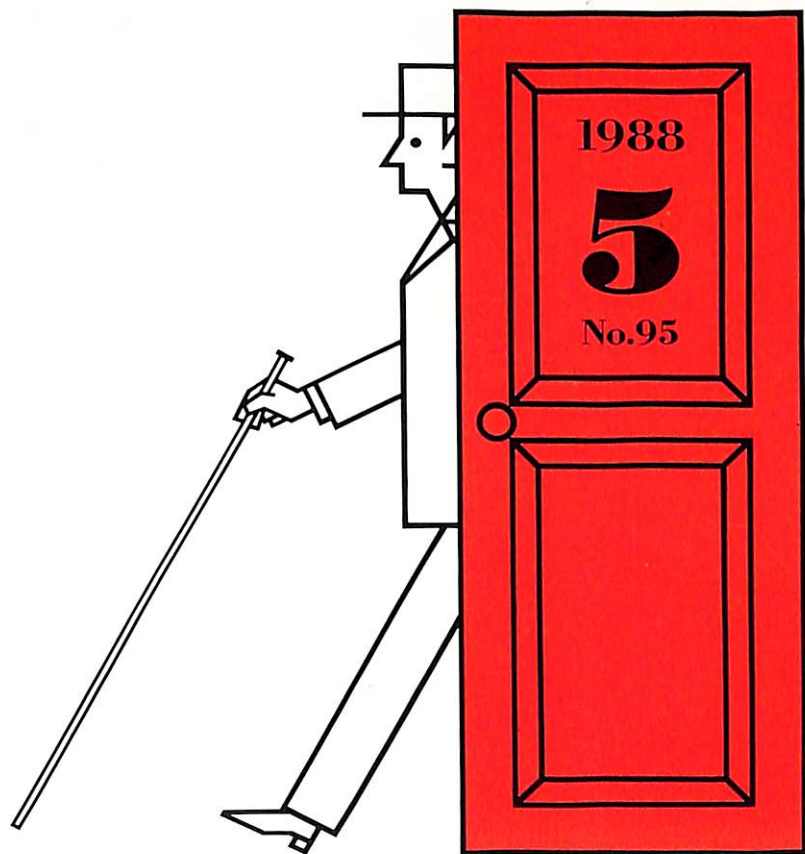


視覚 障害

その研究と情報

特集＊視覚障害者と情報



ISSN 0385-7476

SSK

●盲先覚者伝記シリーズ

関 宏光著

1. 岩橋武夫

—— 義務ゆえの道行 ——

日本ライトハウスを創設し、日本盲人会連合を結成した岩橋武夫、その波乱万丈の生涯は盲人福祉一筋に捧げられた。岩橋武夫を客観的にとらえた初めての小伝！ 昭和58年刊

A 5 判 86頁 定価800円（送料別200円）

岩島 公著

2. 秋元梅吉

—— キリストの証しそのものの人 ——

盲人収容施設の東京光の家の創始者である秋元梅吉は、新旧約聖書全巻を英国に次いで点字出版するなど、点字出版においても大きな足跡を残した。 昭和60年刊

A 5 判 90頁 定価800円（送料別200円）

玉田敬次著

3. 熊谷鉄太郎

—— 見果てぬ夢 ——

大正2年に盲人として初めて大学で学んだ熊谷鉄太郎は、牧師としての宗教活動とともに、後続の盲人指導者たちへの導き手として多大な貢献を果たした。 昭和60年刊

A 5 判 96頁 定価800円（送料別200円）

阿佐 博著

4. 中村京太郎

—— 目を閉じて見るもの ——

明治45年に盲人初の留学生として渡英、「点字毎日」の創刊から編集主筆として、わが国盲界に大きな影響を与えた中村京太郎の感動の生涯をたどる。 昭和62年刊

A 5 判 86頁 定価800円（送料別200円）

赤阪 一著

5. 鳥居篤治郎

—— 世界に眼を・永遠の青年 ——

日本盲界に計り知れない貢献をした鳥居篤治郎、この偉大なる先覚者をいたずらに雲上の人と見るのではなく、真実に生き運命を愛した広い大きな眼を持った人間としての“鳥居”の姿を浮き彫りに。 昭和62年刊

A 5 判 96頁 定価800円（送料別200円）

お申し込みは

日本盲人福祉研究会

〒166 杉並区成田東5-36-15

☎03(220)1421 郵便振替 東京6-16103

または

日本点字図書館用具部

〒160 新宿区高田馬場1-23-4

☎03(209)0751(直) 郵便振替 東京5-44522

目 次

1988年 5月 No.95

2 ページ評論木塚 泰弘… 2

特集 視覚障害者と情報

情報へのアクセス そのABC大里 千之助… 5

パソコン通信による視覚障害者の情報入手.....森 泰雄…17

この人と語る

視覚障害者の情報入手のあれこれ

.....望月 優・石川 准…23

点字表記研究の変遷(1)阿佐 博…39

インフォメーションコーナー45

読者の声55

編集後記60



情報障害の克服

国立特殊教育総合研究所視覚障害教育研究部長 木塚 泰弘

目が見えないと、ひとり歩きとコミュニケーションに最も大きな差し障りを生ずるが、これらはいずれも情報障害とすることができる。ひとり歩きの場合、周囲の状況の判断、ことに前方下面の安全の確認のために必要な情報の収集は、視覚系の情報が使えないとかなり困難である。ないものねだりをするわけにはいかないから、結局、聴覚の情報や杖を媒介として触覚系の情報などを活用して、困難を克服するしかない。

目が見えなくても耳が聞えれば、話し言葉によるコミュニケーションには問題がないと思われがちである。確かに言葉のやり取りそのものには差し障りは少ない。しかしながら、相手の顔の向きや表情あるいは身振りなどに含まれている感情や言外の意味を理解することは、目が見えないとかなり難しい。結局、声の表情や発声される声の向きなどを手掛かりとして判断せざるを得ない。それでも、通りの人込みや立食パーティのときなどでは、自分に話しかけてこられたのかどうかの判断も難しいことがある。

このように、ひとり歩きや話し言葉によるコミュニケーションにおける差し障りは、感覚情報の不足による情報障害であり、それを克服するためには、現在保有している感覚を活用することと、感覚情報を巧みに処理する能力を高めることが問われていることが分かる。このことは、文字や図形によるコミュニケーションの障害とその克服の問題においても全く等しいということができる。

30数年前、高校生で失明した当時、私は書物や図面などが読めなくなったのがつらかったのを覚えている。家族に本を読んでもらったり、指を持ってもらって普通の地図をなでながら説明を聞いてい

るうちに、何度も聞き返すわけにはいかないから、大事なことや度々出てくる基本的な事柄は整理して覚える習慣が身についた。さらに、文脈を頼りに先を予測し、聞き取れない部分を埋めながら要点をまとめて記憶する習慣も身についた。その結果、会議などの複数の人々のやり取りの聞き取りにも慣れた。また、点字の読み書きに際して、あまり読み返しをしないでも済むようになり、触読の遅さを補う結果にもなった。

失明当時は点字図書は質量ともに不足していたが、速く読めない私には十分であった。その後、触読能力が高まるにつれて、点訳図書も拡充された。また、テープ・ライブラリーの開始やプライベート・サービスの拡充に加えて、点字タイプライターやテープレコーダーの入手で、学生時代を充実して過ごすことができた。

最近では、パソコンを活用したシステムをはじめとして、有効な機器の開発が進み、活用が期待されている。また、既に点訳されたり、音声化された文字情報もそれほど少ないということとはできない。もちろん、少しでも多種類で多量の文字情報を入手できるようにする努力は、今後も継続的に行なうことは極めて大切である。しかしながら、それ以上に大切になってきたのは、多くの情報の中から必要な情報を選択する能力を高めることである。情報不足の状況が一変して、電子出版のCD-ROMや各種のデータベースから点字や音声に変換された情報が、次々に飛び出してきたらどうなるであろうか？機器の開発においても、検索機能とファイル管理の機能を、もっと重視する必要がある。そのうえで、すべての情報障害者が、主体的に情報を収集し、処理する能力を高めるようにするにはどうすればよいかを追及することが今問われているのではなからうか。情報処理能力を高めるということは、情報不足を補うときだけではなく、過剰な情報から必要な情報を選択するためにも共通して必要とされるからである。

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みにになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

編集後記

本号は、視覚障害者が情報を入手するとき、どんな情報があるかについて特集しました。大里さんには既存の情報提供システムの紹介をしていただきましたし、森さんには今注目のパソコン通信について紹介していただきました。こうした情報源をフルに活用して、生活を豊かにしている視覚障害者がいるということは頼もしいことです。視覚障害者の口から、よく「情報が乏しい」ということを聞きますが、積極的に取り入れようとする態度さえあれば、今はかなり恵まれた時代になっていると思います。石川さんと望月さんの対談がそれをよく表わしていると思いますが、情報提供について点字図書館の関係者には一考を促したいと思います。

新年度になったこの号から「点字表記研究の変遷」がスタートしました。6回にわたって連載しますのでご期待ください。また、「読者の声」欄も始めました。皆様からの投書をお待ちしています。内容はなんでもけっこうですので、600字程度にまとめて日本盲人福祉研究会事務所へお送りください。（田中 徹二）

視 覚 障 害

1988年 5 月 No.95

年間購読料 3,000 円（送料とも）

発行日 1988年 5 月 1 日

編集人（連絡先）

日 本 盲 人 福 祉 研 究 会

〒 166 東京都杉並区成田東 5 丁目 36 番
15 号

電話（03）220 - 1421

振替口座 東京 6 - 1 6 1 0 3

発行人 身体障害者団体定期刊行物協会

〒 157 東京都世田谷区砧 6 - 26 - 21

印刷所 合同印刷株式会社

〒 130 東京都墨田区業平 2 - 9 - 13
電 話（624）6 1 1 1（代表）

協賛団体

日本点字図書館